

検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成25年11月号 目次

【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1)	1
------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年10月	3
-------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年10月分)	7
--------------------------------	---

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1)

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、アレルギーの発症数及び重篤度を踏まえ、卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かきの7品目が特定原材料として指定されており、横浜市でもこれら7品目の検査を実施しています。

今回は、平成25年9月に健康福祉局食品専門監視班および緑福祉保健センターが市内製造所や小売店から収去した検体について、えび・かにおよび小麦の検査、10月に市内小学校の給食施設から収去したアレルギー物質除去給食24検体について、卵および乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1 えび・かきの検査

えびせんべいを製造している市内製造所からせんべい3検体、小売店等から5検体を収去し、えび・かきの検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、えびせんべい1検体は陽性でしたが、その他の7検体は陰性(10ppm未満)でした(表1)。えびせんべいは、同じ施設内で製造されているしょうゆ・しおせんべいにコンタミネーションがないかどうかを確認するための対照品として検査を行ったものであり、えびを使用していることが明らかなたため、今回確認試験は行いませんでした。

表1 えび・かきの検査結果

検体名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
えびせんべい	1	1
しょうゆせんべい	1	0
うすしおせんべい	1	0
はんぺん	1	0
揚げ油	1	0
いか玉	1	0
ふりかけ	1	0
つゆ	1	0
合計	8	1

2 小麦の検査

市内製造所、小売店等から米粉など8検体を収去し、小麦の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、小麦はすべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 小麦の検査結果

検体名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
米粉	3	0
片栗粉	1	0
揚げ油	1	0
コーンフレーク	1	0
レトルトカレー	1	0
しょうゆ(小麦不使用)	1	0
合計	8	0

3 卵の検査

市内小学校の給食施設から卵スープ(卵除去)14検体、八宝菜(卵除去)2検体を収去し、卵の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、卵はすべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 卵の検査結果

検体名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
卵スープ(卵除去)	14	0
八宝菜(卵除去)	2	0
合計	16	0

4 乳の検査

市内小学校の給食施設からにんじんポタージュ(乳除去)8検体を収去し、乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、乳はすべて陰性(10ppm未満)でした(表4)。

表4 乳の検査結果

検体名	スクリーニング試験	
	検体数	陽性数
にんじんポタージュ(乳除去)	8	0
合計	8	0

※ 検査法について

アレルギー物質を含む食品の検査は、まずELISA法によるスクリーニング試験を行います。ELISA法とは、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、食品の加工度合いや使用原材料によって、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行います。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 10月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- RSウイルス感染症の報告が多くなっています。

全数把握疾患

10月期に報告された全数把握疾患

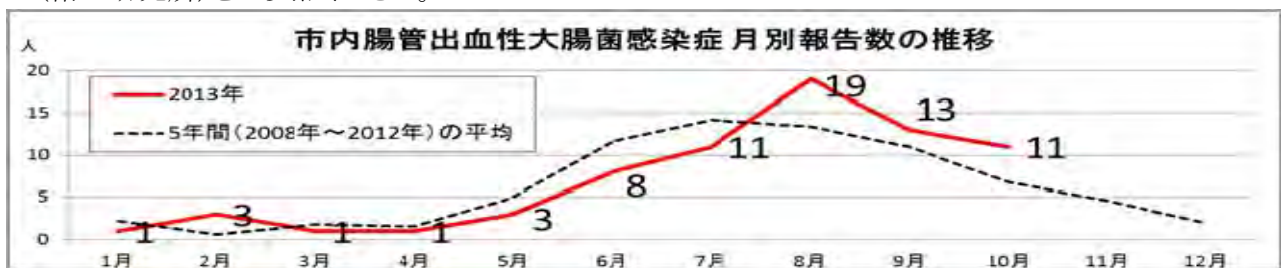
細菌性赤痢	1件	アメーバ赤痢	1件
腸管出血性大腸菌感染症	11件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
腸チフス	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
A型肝炎	1件	梅毒	2件
デング熱	2件	風しん	6件
レジオネラ症	2件		

＜細菌性赤痢＞

Shigella flexneri (B群) の報告が1件ありました。渡航先(バングラデシュ・インド・ネパール・パキスタン)での感染が推定されています。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

11件(O157 VT2 5件、O103 VT1 3件、O157 VT1 1件、O26 VT1 1件、O121 VT2 1件)の報告がありました。このうち4件は食中毒発生施設を利用していました。また、2件は同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今年は8月、9月、10月で過去5年間の平均よりも報告数が有意($p<0.05$)に上回っています。本症は例年これからの季節は減少傾向が見られますが、報告数が多く推移しているため今後も注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、肉など食品の中心部まで加熱(75℃で1分間以上)することが重要です。焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策も大切です。2次感染防止には、しっかりした手洗いを行いましょう。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めの医療機関への受診を心掛けてください。詳しくは、「[O157に注意しましょう](#)」(衛生研究所)をご参照ください。



＜腸チフス＞ 1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。最近海外渡航歴の無い国内発生例が増えている([IDWR39号](#))ので注意が必要です。

＜A型肝炎＞ 1件の報告がありました。国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜デング熱＞ 2件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシア、フィリピン)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にあります。すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

＜レジオネラ症＞ 肺炎型2件の報告がありました。どちらも感染経路等不明でした。

＜アメーバ赤痢＞ 腸管アメーバ症1件の報告があり、タイでの経口感染が推定されています。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞ 70歳代男性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについてはa～f型までの6種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞ 70歳代男性(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は発熱、咳、全

身倦怠感です。血清型は型別不能型でした。

＜梅毒＞2件の早期顕症Ⅰ期の報告がありました。1件は硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹の症状で国内の性的接触による感染、もう1件は初期硬結の症状で国内の異性間性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞6件の報告(すべて男性)がありました。4件では予防接種歴は確認できませんでしたが、1件は予防接種歴2回有り、残るもう1件は予防接種歴1回有り(どちらも発疹、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状からの臨床診断)でした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

定点把握疾患

平成25年9月23日から平成25年10月27日まで(平成25年第39週から平成25年第43週まで。ただし、性感染症については平成25年9月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

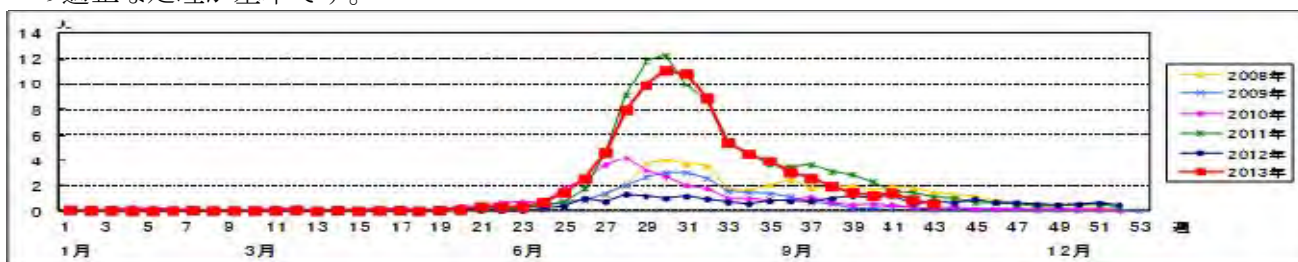
平成25年 週一月日対照表

第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日
第43週	10月21日～10月27日

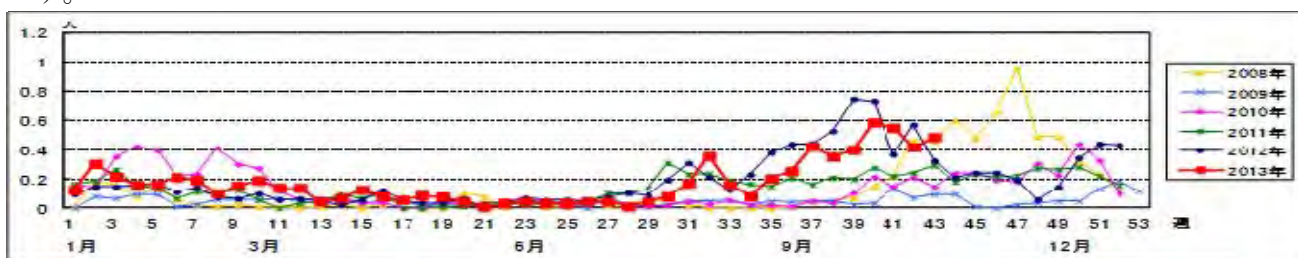
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜手足口病＞第43週は市全体で定点あたり0.60と流行は落ち着いていますが、唯一神奈川区で2.00と、警報レベル終息基準値(2.00)を下回っていません。流行は終息に向かっていますが、この夏の流行の主な原因ウイルスであるCA6は、罹患1～2か月後の爪甲脱落症が報告されているので注意が必要です。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。



＜RSウイルス感染症＞市全体で第43週0.49と増加傾向です。最近気温の変動が激しく、寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。平成24年の人口動態統計によると、わが国のRSウイルス感染症による死亡数は、2008～2012年の5年間で、年平均31.4人(28～36人)と報告([IDWR36号](#))されており、米国では年間400例ほどの小児がRSウイルス感染症により死亡していることが推察されています。



＜性感染症＞9月は、性器クラミジア感染症は男性が35件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が2件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が2件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第39週0.25、第40週0.67、第41週0.00、第42週0.50、第43週0.00と横ばい傾向です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。第42週から感染性胃腸炎(ロタウイルス)が新たに報告対象疾患に加わりましたが、報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞9月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件(鼻咽頭ぬぐい液51件、ふん便2件)、内科定点3件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(眼脂)、基幹定点8件(鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便1件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は咽頭炎25人、気管支炎16人、耳下腺炎6人、胃腸炎2人、インフルエンザ、手足口病、ヘルパンギーナ、結膜炎各1人、内科定点はインフルエンザ3人、眼科定点は流行性角膜炎3人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、川崎病、肺炎、手足口病、クルーズ症候群、発疹症各1人でした。

11月8日現在、小児科定点の咽頭炎患者6人からアデノウイルス1型(1人)と3型(2人)、コクサッキーウイルス(以下Cox)B1型、CoxB2型、CoxB3型(各1人)、ヘルパンギーナ患者1人からCoxB1型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルス(以下Inf)B型、気管支炎患者1人からパラインフルエンザ2型、内科定点のインフルエンザ患者3人からInfAH3型、眼科定点の流行性角膜炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人からCoxB3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気管支炎患者6人と咽頭炎患者2人からRSウイルス、気管支炎患者5人と咽頭炎患者3人からライノウイルス、咽頭炎患者5人からパラインフルエンザ(3人)、CoxA2型(1人)とCoxA6型(1人)、基幹定点の手足口病患者1人からCoxA6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

10月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科から1件、基幹定点から6件、定点以外の医療機関等からは13件あり、赤痢菌(*S.flexneri* 4)1件、腸管出血性大腸菌11件、チフス菌1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から2件、基幹定点から4件、その他が8件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(10月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	10月			2013年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			1		2	3
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			11		1	58
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌			1		4	2
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
不検出	1	6	0	4	52	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	10月			2013年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1				1	1	
T2				5		
T4	1			10		
T6				7		
T12				4		
T25				2		
T28				3		
T B3264				3		
B群溶血性レンサ球菌				1		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌					2	21
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌			1	1		4
肺炎球菌			1	5	3	22
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌		1		2	5	1
結核菌						10
緑膿菌						63
百日咳		2	1		2	1
その他		1	2		3	4
不検出	1	0	3	11	0	13

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年9月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年10月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年9月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年10月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成25年9月)

平成25年9月の総アクセス数は、176,675件でした。主な内訳は、感染症情報センター56.2%、食品衛生4.3%、保健情報8.8%、検査情報月報22.9%、生活環境衛生2.3%、薬事0.6%でした。

(2) アクセス順位 (平成25年9月)

9月のアクセス順位(表1)

表1 平成25年9月 アクセス順位

は、第1位が「デング熱が流行しています！(検査情報月報 2007年10月号掲載項目)」、第2位が「犬による咬傷(こうしょう、かみきず:bite)について」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

順位	タイトル	件数
1	デング熱が流行しています！ (検査情報月報 2007年10月号掲載項目)	33,269
2	犬による咬傷(こうしょう、かみきず:bite)について	5,033
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,948
4	手足口病について	3,536
5	マイコプラズマ肺炎について	3,185
6	サルモネラ感染症(食中毒)について	2,801
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,779
8	サイトメガロウイルス感染症について	2,634
9	ぎょう虫(蟻虫)症について	2,532
10	衛生研究所トップページ	2,530

9月の総アクセス数は、前月に比べ2%ほど低下しました。今月の1位の「デング熱が流行しています！(検査

情報月報 2007年10月号掲載項目)」は、8月位からインドやシンガポール等で大流行していることが報道された影響と考えます。2位の「犬による咬傷(こうしょう、かみきず:bite)について」は、芸能人による咬傷事件の報道によるものと考えます。

また、マイコプラズマ肺炎は、一時の流行はおさまってきておりますが、依然としてアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「デング熱が流行しています！(トピックス)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/200710/pdf/dengu.pdf>

「犬による咬傷(こうしょう、かみきず:bite)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/dogbite.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年10月）

平成25年10月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成25年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
サイトメガロウイルスについて	1	感染症・疫学情報課
フランスの定期予防接種について	1	感染症・疫学情報課
HPへのリンクについて	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成25年10月）

平成25年10月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 平成25年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月 1日	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
10月 4日	平成25年 熱中症情報	掲載
10月 4日	オーストリアのこどもの定期予防接種について	掲載
10月 4日	ダニ媒介脳炎について	掲載
10月14日	◆お知らせ◆ 感染症法が一部改正 【 届出基準・届出様式 】	変更
10月24日	ブラジルのこどもの定期予防接種について	掲載
10月29日	横浜市人口動態統計資料(平成24年)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】